

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) ※8月2日更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 27,500～28,460 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 32,000～33,300 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 12,000～12,720

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 126.000～135.000 円

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

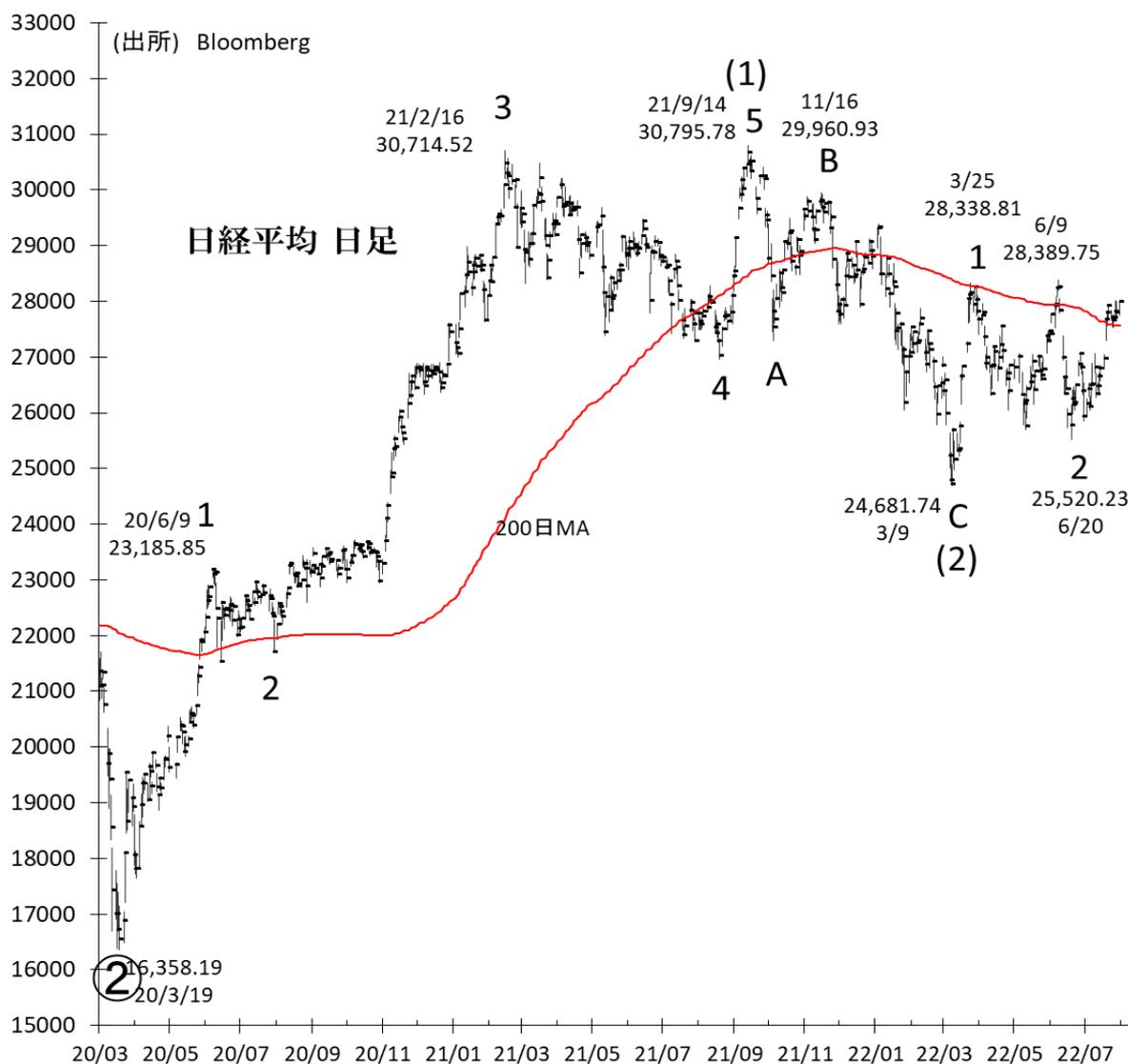
米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均

世界金融危機の底値を付けた 08 年 10 月以降、日経平均はおよそ 4 年周期で底入れしており、現在の相場はコロナショック底(20 年 3 月)を起点とする 4 年サイクルの中にあります。この 4 年サイクルは、二つの 2 年サイクル(2 年+2 年)で構成されており、今年 3 月から後半の 2 年サイクルに入っています。今回、新たな 2 年サイクルは「サード・オブ・サード」と共に始まりました。ここからすると、24 年中に日経平均は過去最高値・38,915 円(ザラバで 38,957 円)を更新してもおかしくありません。



【日足・エリオット波動分析】

日経平均は昨年 9 月来の調整第(2)波を 24,681 円(3/9 安値)で終了し、そこから第(3)波の上昇トレンドに入った可能性が高いとみています。

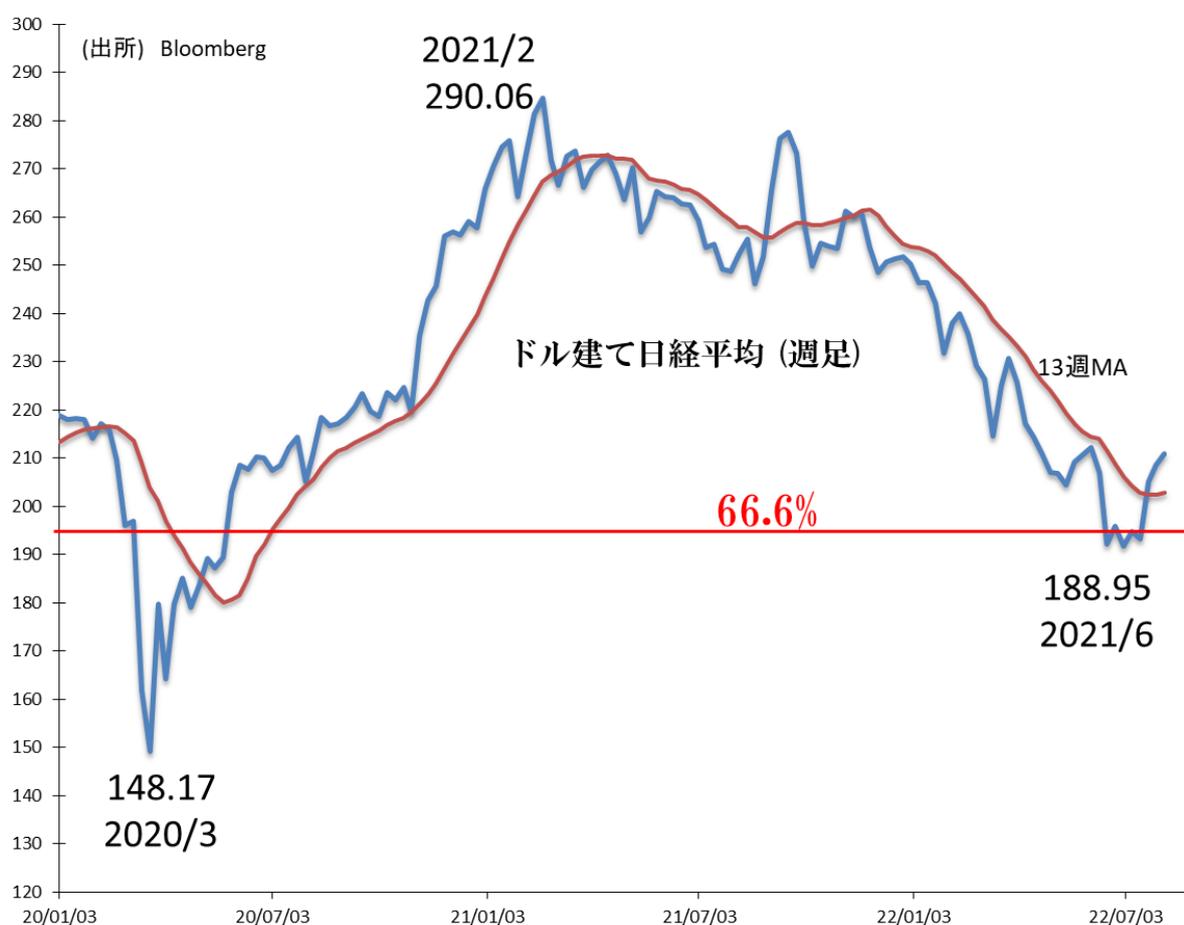
さらに 25,520 円(6/20 安値)を起点に、第(3)波の第 3 波「サード・オブ・サード」の上昇が始まった可能性があり、今年後半の株高シナリオが提示されています。7 月の日経平均は 1408 円(5.3%)高となりました。この流れが 8 月も続くか注目されます。

年初から日経平均の上値は 200 日 MA 付近にとどまっていますが、7 月 20 日以降は 200 日 MA(27,563 円、8/1 終値時点)を上回る動きが続いています。

8月1日の日経平均予想 EPS は 2161.86 円に上昇。21年11月8日に付けた過去最高水準(2179.25 円)の更新が視野に入っています。なお市場予想の EPS 平均値(2242 円)を基準にすると、PER14~15 倍まで買われたときの日経平均は 3 万 1400~3 万 3600 円になります。

なお最近では米ドル/円上昇に急ブレーキがかかっていますが、このことは海外投資家の間に、日本株買い機運を高めるきっかけになるかもしれません。

ドル建て日経平均は、21年10月から13週 MA に上値を抑えられ続けてきました。しかし、7月第3週には—この週に海外投資家は日本株を現物先物合計で8856億円買い越しました—13週 MA を上回り、ドル建て日経平均の基調転換を示しています。



【時間足・エリオット波動分析】

日経平均は 25,520 円(6/20 安値)からの「アセンディング・トライアングル」(強気パターン)を、マドを空けて上放れました(7/20)。トライアングル上辺(2 万 7 千円処)の突破を契機に、日経平均の上昇が加速しています。

面白いことに、今年上半期(1~6 月)の日経平均の終値平均は 27,021 円であり、トライアングル上辺水準に一致しています。そのような重要な節目を上抜けたことにより、今年下半期高への動きが今後は強まるかもしれません。一方、2 万 7 千円未満の価格帯は今年の買いゾーンといえそうです。

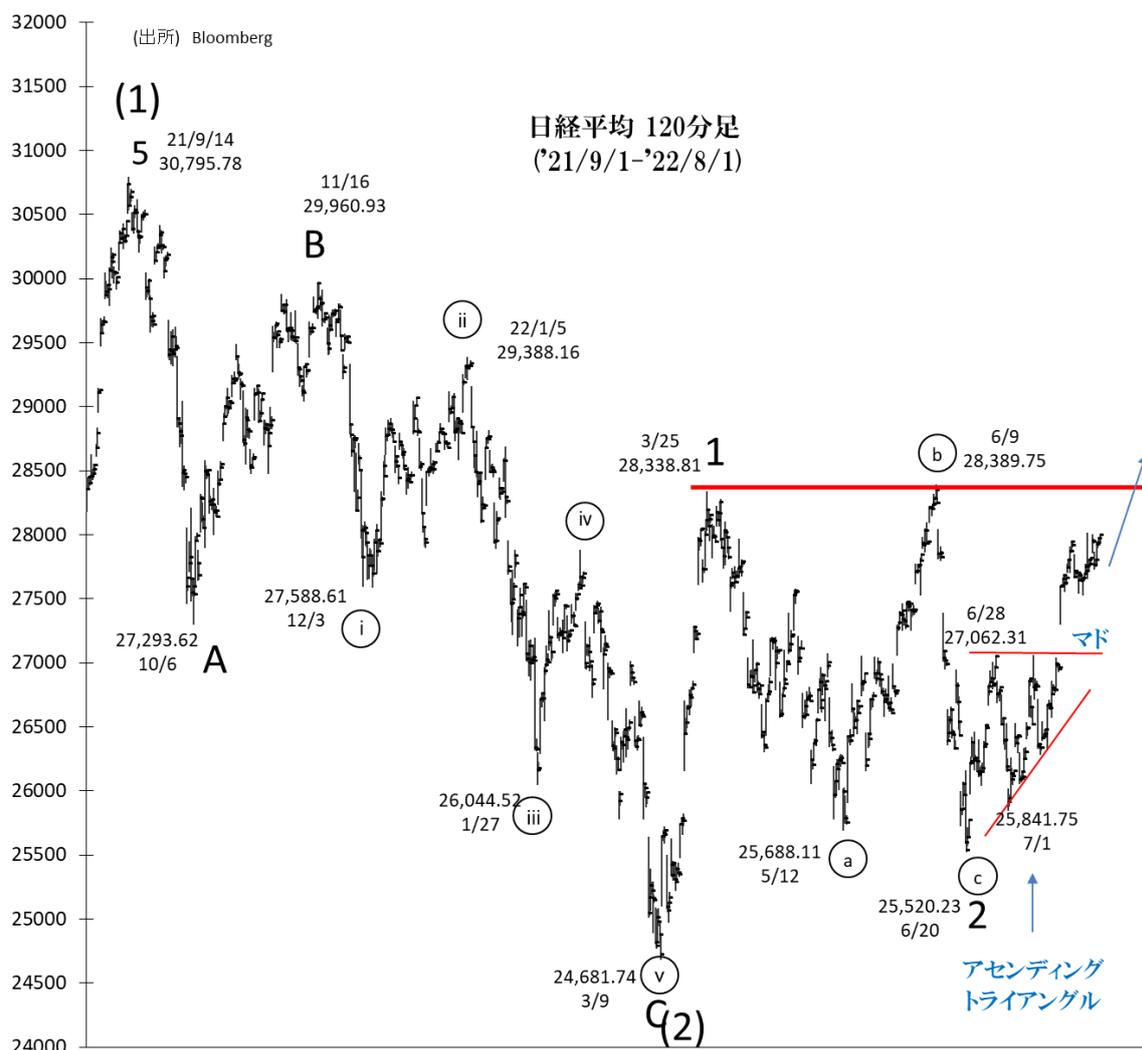
8月1日には日経平均も TOPIX も、約 2 カ月ぶり高値となりました。短期的にも、6 月 9 日高値の 28,389 円 (TOPIX は 1978) を試す局面となりそうです。

28,389~28,460 円は、今年最大の注目チャート節目=「ポイント・オブ・レグニション」といえましょう。

[28,460 円]…21 年 9 月高値からの下げ幅に対する 61.8%戻り

ポイント・オブ・レグニションのブレイクをきっかけに、日経平均はいよいよ 3 万円大台試しを視野に入れる展開となるでしょう。

【8 月 2 日 8:08 更新】



NYダウ



【NYダウ日足&時間足・エリオット波動分析】

NYダウの1月からの下落には波の重複(オーバーラップ)が目立ちます。オーバーラップが目立つ波動は、衝撃波(impulse waves)ではなく修正波(corrective waves)に分類されます(例外あり)。この見方が正しければ、NYダウの1月高値は「当面の天井」であって、数年にわたるような「大天井」はまだ付いていないことになります。

1月高値(36,952ドル)から「ダブル・ジグザグ」(W-X-Y)による下落は、29,653ドル(6/17安値)を以て終了した可能性がある、とみています。

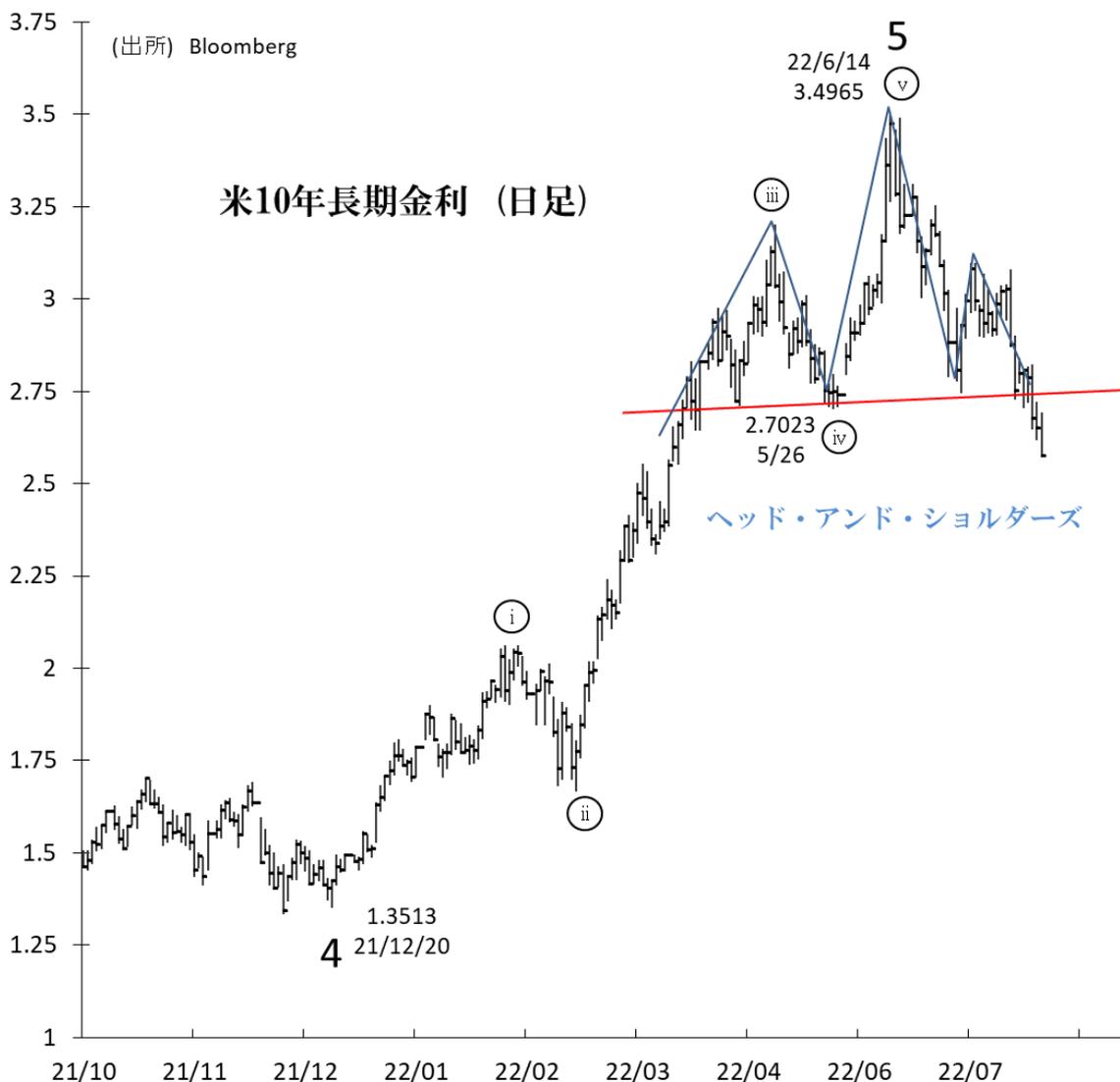
米10年長期金利は「ヘッド・アンド・ショルダーズ」のネックラインから明確に下放れています。この先は2%割れもあり得るでしょう。このような金利低下基調は、株高のサポート要因でしょう。

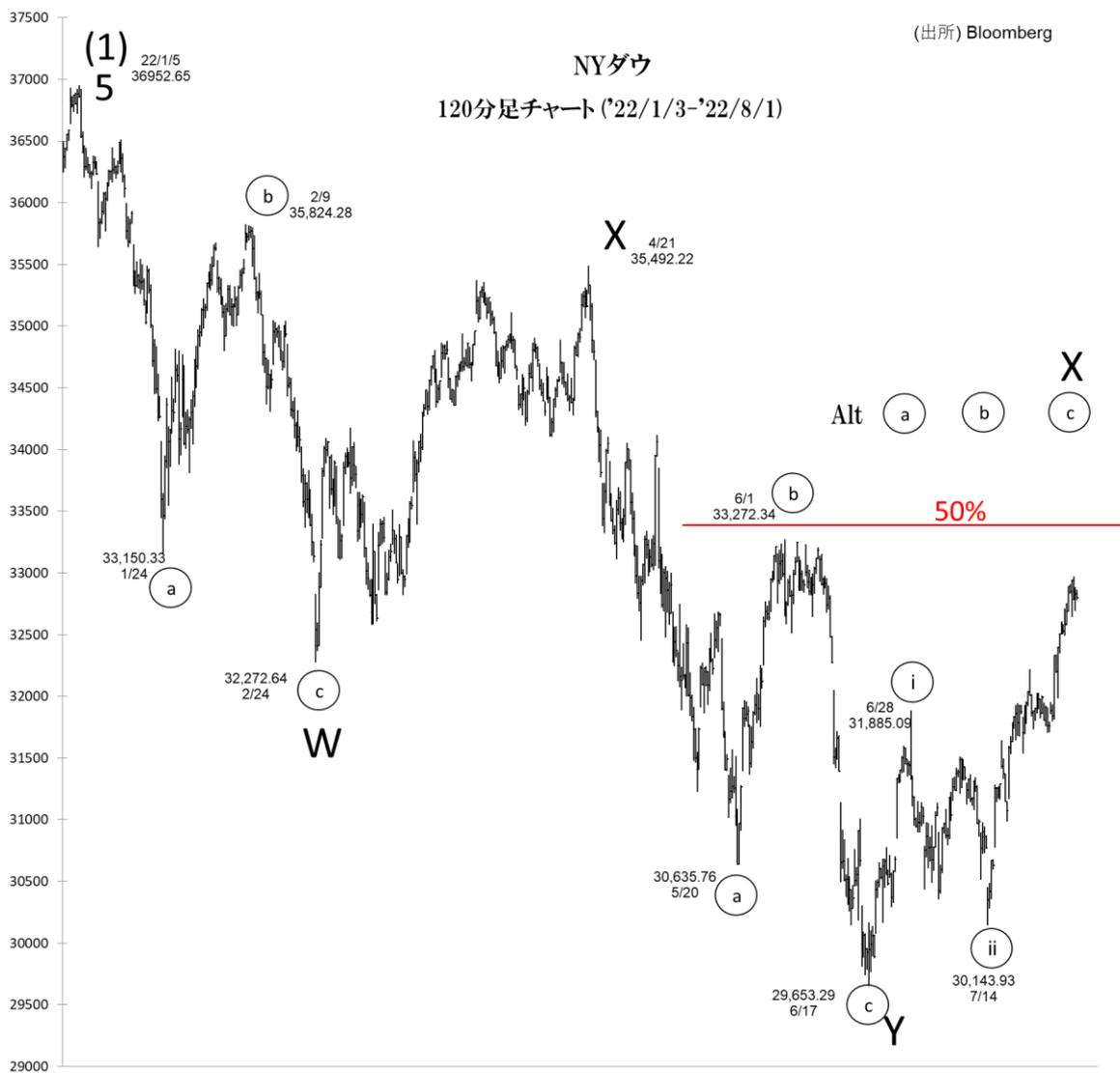
8月1日、NYダウは一時32,972ドルまで上昇しました。次は33,303ドル(1月からの下落に対する半値戻り水準)を目指すでしょう。

【オルタナティブ・カウント】

1月高値からの下落フォーメーションは、「トリプル・ジグザグ」(W-X-Y-X-Z)。29,653ドル(6/17 安値)からはリバウンド・X波に当たります。3万ドル処を割ると、3番目のジグザグZ波(A-B-C)入りが示唆されるでしょう。

【8月2日 8:21 更新】





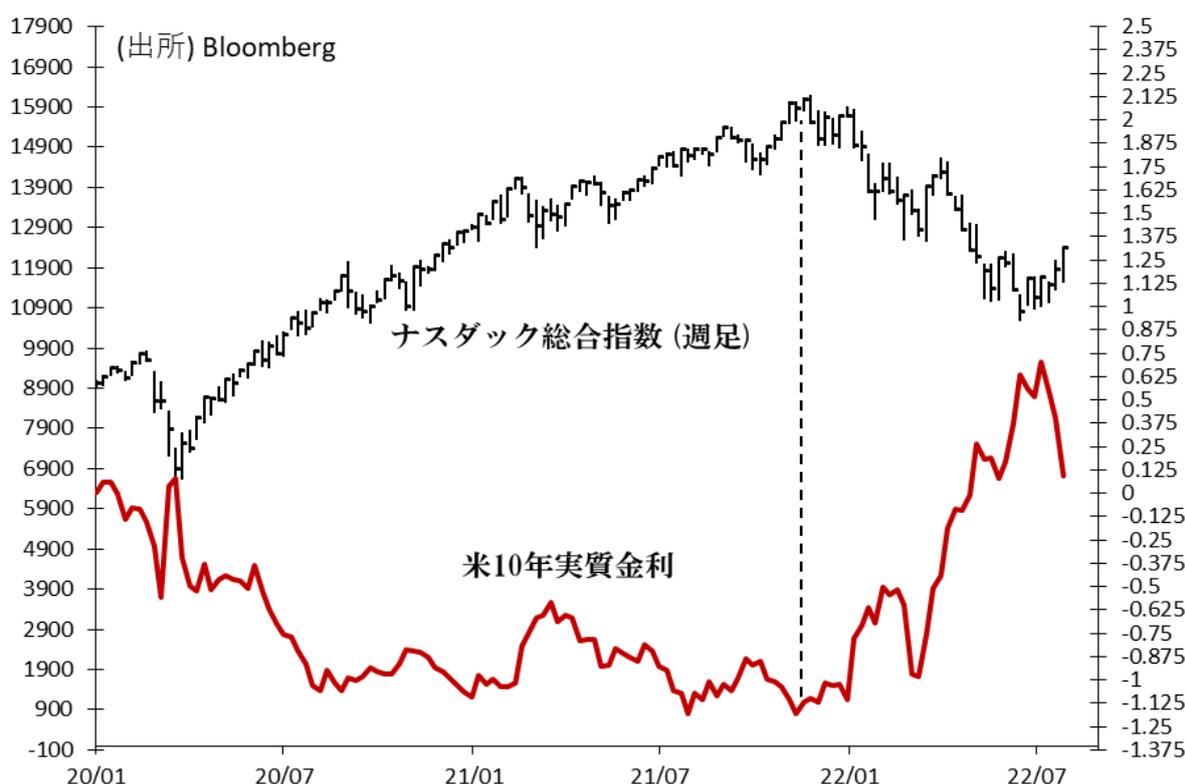
ナスダック



2010年9月以降でナスダックは50カ月MAを月末値で下回っていません。ナスダックの2022年前半のパフォーマンスは30%下落と非常に厳しいものでしたが、それでも50カ月MA(10,800、8/1現在)を維持しています。

米10年実質金利は、当面のピークを6月14日に付けていますが、ナスダックが直近安値を付けた日(6/16)と2日違いです。振り返れば実質金利が史上最低水準(-1.25%)を付けたのは21年11月10日です。そこから日を置かず、21年11月22日にナスダックは史上最高値を付けています。つまり実質金利とナスダックの間に、強い逆相関性の存在が伺えます。

実質金利低下の一方、ナスダックも値を切り上げていく展開は、今後もしばらく続くと予想します。



【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

6月16日安値(10,565)を以て、21年高値(16,212)からの A-B-C パターンによる下落が終わった可能性に注目しています。

7月29日には12,320(6/2高値)を上回り、8月1日には一時12,499と約3カ月ぶり高値となりました。この動きにより、次は12,722を試す動きとなりましょう。

[12,722]…21年11月高値からの下げ幅に対する38.2%戻り水準

【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)】

SOX 指数は、1月4日高値(4068)からの調整を終了したとみています。パターンはダブル・ジグザグ((W)-(X)-(Y))です。

8月1日には一時3006まで上昇し約2カ月ぶり高値を付けました。これにより、7月安値からの上昇幅は、3030(3/14安値)から3633(3/29高値)までの上げ幅(603ポイント)より大きくなりました。1月からの下落における最大のカウンター・トレンドが発生したことになります。

さらに7月安値から足元までの上昇は、小波動レベルで5波構成となっています。短期的には3029(1月高値からの下落幅に対する38.2%戻り水準)辺りで上値を抑えられる可能性があります、SOX 指数の上値試しの展開自体は続く可能性が高いでしょう。

【8月2日 8:55 更新】

(出所) Bloomberg



米ドル/円



22 年上半期の米ドル/円は、22 円幅もの大幅な上昇(米ドル高・円安)を演じ、7 月には 24 年ぶり円安水準を更新しました。筆者が描く理想的なシナリオは、「2023 年 6 月頃に 1 ドル=150~160 円を達成する」というものです。なお(A)波(11 年 10 月→15 年 6 月)と、(C)波(21 年 1 月～)が等しく上がる N 計算値からは、[152.869 円]というターゲットが導かれます。

【月足・エリオット波動分析】

米ドル/円は 102.579 円(21/1/6)を起点とする(C)波の上昇トレンド(米ドル高・円安)にあります。この(C)波は 8 年サイクルに基づき、2023~24 年^注まで続くと思われます。

(C)波は 5 波動構成((1)~(5))となりますが、今のところ第(3)波まで終了した可能性があります。

7 月ローソク足は長い上ヒゲを持つ陰線「流れ星」となり、当面の米ドル/円ピークが確認されました。

注 これまでの円安ピッチは、筆者の想定よりも、半年程度速い印象です。
この点を考慮すると、(C)波の終了の時期も想定より前倒し(22 年末~23 年前半の期間?)になる可能性があります。



【日足・エリオット波動分析】

126.354 円(5/24)を起点とする、マイナー級第 5 波「ダイアゴナル・トライアングル」は、139.349 円(7/14)で完成し、現在インターミディエイト級の第(4)波の下落(米ドル安・円高)が進行中とみています。

第(4)波の下値ターゲットレンジは、レッサー・ディグリー第 4 波領域[131.299 円—126.354 円]です。ただし第 5 波のパターンはダイアゴナル・トライアングルですから、第(4)波のターゲットは(控えめにみても)126.354 円(5/24)となります。

ところで、第(2)波(21 年 3 月～9 月)は複雑なもみ合いパターンでした。この点に着目すると、第(4)波のパターンはおそらくは単純な形、ジグザグ(A-B-C)のコースを辿る可能性があります(オルタネーション)。

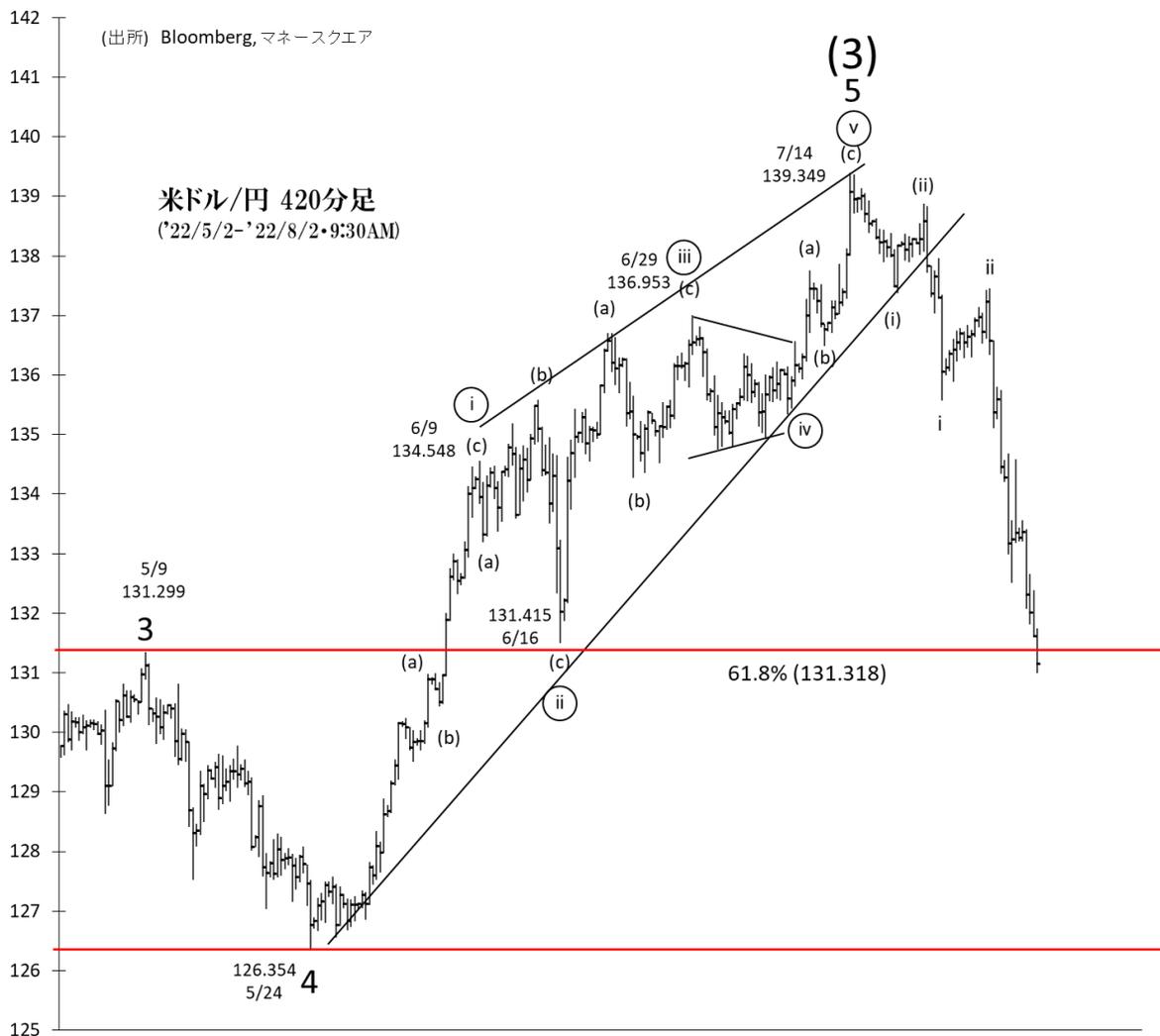
【時間足・エリオット波動分析】

米ドル/円は想定通り急落しています(8月1日のM2TV「エリオット View」もご覧ください)。

8月2日には、6月16日に付けた131.415円、フィボナッチ比率に基づくサポートレベル131.318円、これらを一気に割り込む動きとなっています。このようなダイナミックな展開は、米ドル/円が現在、小波動レベルの「サード・オブ・サード」局面にあることを示しています。

少なくとも126.354円に達するまでは米ドル安・円高の動きは続くでしょう。

【8月2日 9:34 更新】



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ-100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を取引の額に乗じて得た額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
